

安全データシート

作成日 2015 年 04 月 23 日

改訂日 2026 年 01 月 26 日

1. 化学品及び会社情報

製品名 : 石灰水
会社名 : 協和純薬工業株式会社
住所 : 東京都北区浮間 4-16-28
担当部門 : 品質管理室
電話番号 : 03-3968-7441
FAX 番号 : 03-3969-0049
緊急連絡先 : 協和純薬工業株式会社 本社 電話番号 03-3968-7441

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

GHS 分類基準に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示 : なし
注意喚起語 : なし
危険有害性情報 : GHS 分類基準に該当しない
注意書き

安全対策 : この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
換気の良い場所で使用すること。
取扱い後は手や顔をよく洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置 : 飲み込んだ場合、口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合、皮膚を流水と石鹸で洗う。皮膚刺激が生じた時は、医師の診断／手当を受けること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

保管 : 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼刺激が続く時は、医師の診断／手当を受けること。
保管 : 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して保管すること。

廃棄 : 内容物／容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名	化学式	濃度 (w/v%)	官報公示整理番号		CAS No.
			化審法	安衛法	
水酸化カルシウム	Ca(OH)2	0.15	(1)-181	既存化学物質	1305-62-0
水	H2O	99.85	-	-	7732-18-5

※これらの値は製品規格値ではありません。

4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 直ちに多量の水と石鹸で十分に洗い流す。皮膚刺激が生じた時は、 医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合	: 直ちに清浄な水で 15 分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレン ズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続 けること。症状が続く時は、医師の診断／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせないこと。直ちに医師の 診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 本品は不燃性である。周辺火災に応じた消火剤を使用する。
使ってはならない消化剤	: 特になし
火災時の特有の危険有害性	: 火災の際、刺激性または毒性のヒュームを発生することがある。
特有の消火方法	: 消火活動は風上から行い、危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動を行う者の保護	: 適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入
りを禁止する。
作業の際には、吸い込んだり、眼や皮膚に触れないように、必ず適
切な保護具を着用する。
風上から作業して、ミスト、蒸気、ガス等を吸入しないようにする。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川、下水道、土壌等に排出され、環境への影響を
起こさないように注意する。

回収、中和 : 漏出物をウエス等で吸収し、密閉できる空容器に回収する。回収し
た漏出物は、後で適正に廃棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

: 危険でなければ漏れを止める。

回収跡は多量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

: 使用時は、容器をよく振ってから使用する。
容器開封後は二酸化炭素と反応し白濁するため、なるべく早く使い切る。
眼や皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように、適切な保護具を着用する。

安全取扱注意事項

: すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わない。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を与え、または引きずる等の取扱いをしてはならない。
使用後は容器を密閉する。
取扱い後は、手や顔等をよく洗い、うがいをする。
必要に応じて、局所排気または全体排気を行うこと。

接触回避

: 湿気、水、高温体との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

: 直射日光や高温多湿を避け、換気のよいなるべく涼しい暗所に、密閉して保管する。

安全な容器包装材料

: 気密容器

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

: 設定されていない

許容濃度

: 設定されていない

設備対策

: 取扱い場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。
取扱い場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸用保護具

: 呼吸器保護具（防じんマスク等）

手の保護具

: 不浸透性保護手袋

眼/顔面の保護具

: 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具

: 長袖作業衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

: 液体

色

: 無色透明～やや白濁

臭い

: 無臭

pH

: アルカリ性

融点

: 約 0℃

凝固点

: データなし

沸点	: 約 100℃
引火点	: 引火性なし
可燃性	: 不燃性
爆発範囲	: 爆発性なし
蒸気圧	: データなし
相対ガス密度	: データなし
密度又は相対密度	: データなし
比重	: データなし
溶解度	: 水に対し自由に混和
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	
	: データなし
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取扱いにおいては安定している。
危険有害反応可能性	: 酸と接触すると反応することがある。
避けるべき条件	: 直射日光、高温
混触危険物質	: 酸、金属
危険有害な分解生成物	: 酸化カルシウム

11. 有害性情報

急性毒性	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	
	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない

誤えん有害性

: 分類できない

※参考【水酸化カルシウムのデータ】

急性毒性

: (経口) ラット LD₅₀=7340 mg/kg 区分に該当しない
(経皮) 分類できない
(吸入; 蒸気) 分類できない
(吸入; 粉じん) 分類できない

皮膚腐食性/刺激性

: 眼及び気道を含むすべての身体表面ばく露に対し、中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質はヒトの皮膚に対して中等度の刺激性を示すとの記載 (IUCLID (2000)) や、腐食性を示す (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中等度又は軽度」との記載から、区分 2 (皮膚刺激) とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: 身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質は眼に対して腐食性を示す (IUCLID (2000)) との報告や、非可逆的な傷害を与える (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。以上の結果から、区分 1 (重篤な眼の損傷) とした。

呼吸器感作性

: 分類できない

皮膚感作性

: 分類できない

生殖細胞変異原性

: 分類できない

In vivo データはなく、in vitro では、哺乳類及びヒト培養細胞を用いるコメットアッセイで陰性である (HSDB (Access on September 2014))。

発がん性

: 分類できない

生殖毒性

: 分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 本物質のデータは限られているが、ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、EPA Pesticide (2005)、HSDB (Access on September 2014))。実験動物のデータはない。以上より、ヒトの気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載があることから、区分 1 (呼吸器) とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: 本物質は慢性的な経口摂取により、口腔内及び消化管への刺激による炎症性、又は潰瘍性変化を生じることがある (HSDB (Access on

September 2014)) との記述、並びにラットに 3 ヶ月間飲水投与した試験において、肝臓、腎臓、胃に萎縮性変化、小腸に炎症がみられた (IUCLID (2000)) との記述があるが、投与量を含め詳細が不明で分類に利用できない。すなわち、データ不足のため分類できない。なお、本物質は米国 FDA で GRAS (Generally Recognized As Safe) 物質に認定されており、添加物としての食品への通常使用においては安全性が確立している (EPARED (2005))。また、旧分類は List 2 の情報源を基に区分 2 (肺) と分類されたが、今回の List 2 の情報源 (HSDB、IUCLID) からは「呼吸器系」を標的臓器とする影響は急性ばく露影響 (ヒトで吸入により上気道の不快感、咳、胸痛、粘膜の化学性火傷、肺水腫を生じることがある (HSDB (Access on September 2014)) としては確認できたが、反復ばく露影響として分類する根拠は乏しいと判断した。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない

水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害影響 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 廃棄においては、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。本製品を含む廃液及び洗浄廃水を、直接河川等に排出したりそのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装

: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。汚染容器においては、関連法規並びに地方自治体の条例に従って適切な処分を行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送 (IMDG)

国連番号 : 非該当

品名 (国連輸送名) : 非該当

国連分類 : 非該当

容器等級 : 非該当

航空輸送 (IATA)

国連番号	: 非該当
品名（国連輸送名）	: 非該当
国連分類	: 非該当
容器等級	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
国内規制	: 特段の規制なし（非危険物）
特別な安全上の対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 非該当（水酸化カルシウム含有量が 1%未満のため）
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	: 非該当
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制（別表第 1 の 16 項）

16. その他の情報

この安全データシート（SDS）は JIS Z 7253 : 2019 に準拠し、作成時における最新の資料・データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂される事があります。

SDS 中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途や用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。又、記載内容について十分注意を払っておりますが、その内容を保証するものではありません。※危険、有害性の評価は必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いには注意をお願い致します。

※参考文献

独立行政法人製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)」

独立行政法人製品評価技術基盤機構「GHS 混合物分類判定ラベル/SDS 作成支援システム(NITE-Gmiccs)」

JIS Z 7252:2019「GHS に基づく化学物質の分類方法」

経済産業省「事業者向け GHS 分類ガイダンス（令和元年度改訂版 ver.2.0）」

中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター「GHS モデル SDS 情報」

共立出版株式会社「化学大辞典」

原料メーカー SDS